

平成 21 年度 筋骨格系 TAG の進捗状況

日本整形外科学会 ICD-11 検討委員会委員長 望月 一男

I. 筋骨格系 TAG の組織構成：

Chair: Sundberg 先生 (スウェーデン・ルンド大)

Co-chair: Woolf 教授 (英国), 清水教授 (日本・岐阜大)

TAG 本部事務局: スウェーデン・ルンド大整形外科

Managing Editor: Annett W Dahl

Work Group: 8 分野に決定し, 以下のように担当

- ① Rheumatology; Anthony D. Woolf 教授, Prof. Peter Brooks (Australia)
- ② Paediatric Orthopaedics & Orthopaedic Infections; Prof. Nicolas M. P. Clarke (UK)
- ③ Orthopaedic Oncology & General Orthopaedics; Prof. Karsten Dreinhöfer (Germany)
- ④ Spine; 清水克時教授,
- ⑤ Trauma & Sports Medicine; Prof. Kenneth J. Koval (USA),
Prof. Jose E. R. Leite (Brazil),
- ⑥ Joints Except Rheumatology; Martin Sundberg 先生,
- ⑦ Osteoporosis - Fragility Fractures; Prof. Ghassan Maalouf (Lebanon),
- ⑧ Rehabilitation; Prof. Nicolas E. Walsh (USA)

II. 筋骨格系 TAG の進捗状況と日本整形外科学会の活動

- a. 委員会での作業実績 (JOA 試案, English Version) を, TAG 新 Chair Sundberg 先生に 5 月上旬送付しました.
- b. 8 つの分野の Work Group への委員候補の推薦を 6 月上旬に行いました.
 - ① Rheumatology — 石黒直樹教授 (名大)
 - ② Paediatric Orthopaedics & Orthopaedic Infections —
亀ヶ谷真琴院長 (千葉県こどもと大人の整形外科)
 - ③ Orthopaedic Oncology & General Orthopaedics — 尾崎敏文教授 (岡山大)
 - ④ Spine — 清水克時先生 (岐阜大・筋骨格系 TAG Co-chair)
 - ⑤ Trauma & Sports Medicine — 松下隆教授 (帝京大)
 - ⑥ Joints Except Rheumatology — 黒坂昌弘教授 (神戸大)
 - ⑦ Osteoporosis - Fragility Fractures — 萩野浩教授 (鳥取大)
 - ⑧ Rehabilitation — 志波直人教授 (久留米大)
- c. 腫瘍 TAG から厚労省 ICD 室を通じて国内委員の推薦依頼があり, 日整会骨・軟部腫瘍委員会から石井猛委員 (千葉県がんセンター) が推薦されました.
- d. 平成 21 年度第 2 回 ICD-11 検討委員会/筋骨格系 TAG 組織委員会 合同委員会 (8 月 28 日) において, 東京医科歯科大准教授の中谷純先生から, WHO ICD-11 改訂作業のタイムスケジュールについての講義を受けました.

- e. 筋骨格系 TAG 第 2 回 Face-to-Face Meeting (2009 年 9 月 25-27 日, ロンドン) に TAG Co-chair 清水克時委員, 国際 Work Group 協力員の加藤真介委員が出席/傍聴しました. この会議の結果, 筋骨格系 TAG の基本方針は JOA 試案の Spine 分野が今後の規範となり, 日整会が期待する方向に改訂作業が進む可能性が大きくなりました. 主な合意事項を以下に示します.
- ① 内科 TAG の Rheumatology Work Group と共同で作業を進める.
 - ② 筋骨格系 TAG は ICD-11 完成後もさらに 10 年程度活動を続け, 持続的に改訂を行う (ICD-11 完成後 ICD-12 は計画されず, ICD-2013 のような名称になる予定).
 - ③ WHO から示されている ICD-11 の作業内容の再確認. Chapter XIII (M) は全面的な構成変更を希望することとし, それが許諾されるか否かを WHO に問い合わせる.
 - ④ JOA から提案した Spine の改訂案を雛形とすること, Chapter XIII の Spine の項目の中に外傷を, Chapter XIX (外因) から移管するか, 連結させることを提案する.
 - ⑤ α 版完成前に筋骨格系 TAG 第 3 回 Face-to-Face Meeting を開催する予定 (2010 年 1 月 29-30 日, チューリッヒ).
- f. Osteoporosis - Fragility Fractures の Work Group の会議が 2009 年 10 月 4-6 日に開催され, 萩野浩先生が出席しました.
- g. 2009 WHO-FIC Network Meeting (2009 年 10 月 10-15 日, ソウル) に筋骨格系 TAG Co-chair 清水克時委員, 国際 Work Group 協力員の加藤真介委員・麩谷博之委員が出席/傍聴しました.

III. 前回の専門委員会以後の活動

- a. 2010 年 1 月 25 日 JOA 試案の改訂版 Revised Draft of JOA proposal-ICD を, 筋骨格系 TAG の各委員あてにメール添付で送付しました. これは JOA 試案を見直したものに, 骨・軟部腫瘍, 骨粗鬆症, リハビリテーションを新たに追加したものです (厚労省 ICD 室に情報提供済み・資料省略).
- b. 2010 年 1 月末チューリッヒで開催予定であった筋骨格系 TAG 第 3 回 Face-to-Face Meeting は中止となり, 筋骨格系 TAG は各 WG が独自に α 版の最終稿を 5 月 10 日までに WHO あてに提出することとなりました. これに伴い, 8 つの WG 中 6 つの WG (Rheumatology WG と Orthopaedic Oncology & General Orthopaedics WG 以外の) から, 日整会に対して委員の推薦依頼がありました. 2010 年 3 月現在, 各 WG に推薦された委員は α 版の最終稿完成に向けて, 鋭意努力を傾注しています.

以上